

殺虫剤
アセタミプリド液剤

マツグリーン[®]液剤 2

農林水産省登録 第20838号
(日本曹達(株)登録)

性状: 無色澄明水溶性液体
毒性: 普通物(毒物及び劇物に該当しないものを指していう通称)
危険物: 第四類第三石油類
有効年限: 4年
包装: 1ℓ × 12, 10ℓ

有効成分: アセタミプリド(化管法第1種) 2.0%

殺虫剤分類 4A

マツグリーン[®]は日本曹達(株)の登録商標です。

特長

- 普通物で使いやすいです。
- 低薬量で、マツノマダラカミキリ成虫に優れた効果があります。
- 新しい効きめで、マツノマダラカミキリ成虫と樹木害虫に優れた効果があります。現行の有機リン剤と比べ20分の1以下の低薬量で優れた防除効果を発揮する、新しい作用(ネオニコチノイド系)の殺虫剤です。また、つつじ・つばき等の樹木害虫にも優れた効果を発揮します。
- 新枝への浸透性があり、耐雨性にも優れます。浸透性に優れ、しかも樹皮や樹内で安定し、耐雨性にも優れるため、効果が長期間持続します。
- 人や環境に悪影響が少ないです。人畜毒性: 普通物の薬剤で、散布液の有効成分も低濃度のため、人や環境に悪影響の少ない薬剤です。
- 臭いや汚れがほとんどありません。散布後のいやな臭いや汚れがほとんどなく、薬液飛散による車の塗装や、墓石の変色・汚染がほとんどありません。
- 薬液の調製が容易です。使いやすい液剤タイプで、100倍希釈(1,000リットルタンク当たり薬量10リットルのため、調製が容易です。)
- 環境中への残留が少ないです。本剤は蒸気圧が低いため(1.0 × 10⁻⁶ Pa) 散布したマツから大気への移行がほとんどなく、また土壌中や河川水中では微生物などによって速やかに分解されるため、土壌・水系汚染の可能性が少ない薬剤です。
- 有用昆虫・天敵ダニや鳥類への安全性が高いです。ミツバチ・マルハナバチ、天敵のケナガカブリダニへの影響が少なく、本剤の登録範囲の使用方法では鳥類への影響に関する特段の注意事項はありません。(ただし、蚕には長期間の毒性があります)
- 周辺作物に薬害の心配がほとんどありません。ひのきなどの樹木や、野菜・果樹等の農作物に、薬害の心配がほとんどありません。

適用病害虫名及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
まつ (生立木)	マツカレハ	100~250倍	3ℓ/本 (樹高10m)	幼虫発生前 から 幼虫発生期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は 1回以内)
	マツノマダラカミキリ 成虫	60~100倍		成虫発生直前 から 発生初期			
		10倍	3~4ℓ/10a	成虫発生初期 及び 発生最盛期直前			
樹木類 (つつじ類、とちのき、ブ ラタナス、さんごじゅ、 ひいらぎもくせい、 いぬまき、あじさい、 さくらを除く)	アブラムシ類	500倍	200~700ℓ/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は 1回以内)
	カイガラムシ類 ケムシ類	250倍					
さくら	カイガラムシ類 ケムシ類	250倍	200~700ℓ/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は 1回以内)
	アブラムシ類	500倍					
	クビアカツヤカミキリ	200倍	200~700ℓ/10a	成虫発生初期		樹幹散布	
		20倍	20~70ℓ/10a				
つつじ類	カイガラムシ類 ケムシ類	250倍	200~700ℓ/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は 1回以内)
	ツツジゲンバイ アブラムシ類 チュウレンジハバチ	500倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
あじさい	コガネムシ類 アブラムシ類	500倍	200~700ℓ/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は1回以内)
	カイガラムシ類 ケムシ類	250倍					
とちのき	アブラムシ類	500倍	200~700ℓ/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は1回以内)
	カイガラムシ類 ケムシ類 トチノキヒメヨコバイ	250倍					
ブラタナス	アブラムシ類	500倍	200~700ℓ/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は1回以内)
	カイガラムシ類 ケムシ類 ブラタナスグンバイ	250倍					
さんごじゅ	サンゴジュハムシ アブラムシ類	500倍	200~700ℓ/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は1回以内)
	カイガラムシ類 ケムシ類	250倍					
ひいらぎもくせい	ヘリグロテントウノミハムシ アブラムシ類	500倍	200~700ℓ/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は1回以内)
	カイガラムシ類 ケムシ類	250倍					
いぬまき	キオビエダシャク	100~ 250倍	200~700ℓ/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は1回以内)
	アブラムシ類	500倍					
	カイガラムシ類 ケムシ類	250倍					
ばら	チュウレンジハバチ	500倍	100~300ℓ/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内
くり	カイガラムシ類	50倍	胸高直径 20cm未満は800ml、 20~30cm未満は1000~1200ml、 30~40cm未満は1400~1600ml、 40~50cm未満は2200~3400ml、 50~60cm未満は3400~5200ml、 60cm以上は直径4cm増すごとに200mlを 順次増量する	春季~秋季] 但し 収穫50日前 まで	1回	樹幹注入	3回以内 (樹幹注入は1回以内)
樹木類(さくら、 ブラタナスを除く)	カイガラムシ類	50倍	胸高直径 20cm未満は800ml、 20~30cm未満は1000~1200ml、 30~40cm未満は1400~1600ml、 40~50cm未満は2200~3400ml、 50~60cm未満は3400~5200ml、 60cm以上は直径4cm増すごとに200mlを 順次増量する	春季~秋季	1回	樹幹注入	5回以内 (樹幹注入は1回以内)
さくら	カイガラムシ類	50倍	胸高直径 20cm未満は800ml、 20~30cm未満は1000~1200ml、 30~40cm未満は1400~1600ml、 40~50cm未満は2200~3400ml、 50~60cm未満は3400~5200ml、 60cm以上は直径4cm増すごとに200mlを 順次増量する	春季~秋季	1回	樹幹注入	5回以内 (樹幹注入は1回以内)
	クビアカツヤカミキリ						

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
ブラタナス	カイガラムシ類 ブラタナスグンバイ	50倍	胸高直径 20cm未満は800ml、 20～30cm未満は1000～1200ml、 30～40cm未満は1400～1600ml、 40～50cm未満は2200～3400ml、 50～60cm未満は3400～5200ml、 60cm以上は直径4cm増すごとに200mlを 順次増量する	春季～秋季	1回	樹幹注入	5回以内 (樹幹注入は 1回以内)

使用上の注意事項

- 散布量は対象作物の生育段階・栽培形態および散布方法に合わせ調節してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量・使用時期・使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合は、都道府県関係など指導機関の指導を受けるようにしてください。

安全使用上の注意事項

- 本剤の中毒対しては、動物実験でL-メチオニン製剤、グリチルリチン製剤およびグルタチオン製剤の注射投与が有効であるとする報告もあります。
- 蚕に対し長期間毒性があるので、桑に付着するおそれがある地域では使用しないでください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗いし、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は農薬用マスクなどを着用してください。作業後はうがいをするとともに洗眼してください。
- 危険物第四類第三石油類に属するので、火気には十分注意してください。
- 街路・公園等で使用する場合には、散布中および散布後（少なくとも散布当日）に、小児や、散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないように、縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

無人航空機による散布に係る注意事項

- 無人航空機による散布に当たっては、散布機種に適合した散布装置を使用してください。
- 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管、その他散布装置の十分な点検を行ってください。
- 少量散布の場合は特定の農薬（混合可能が確認されているもの）を除いて、原則として他の農薬との混用は行わないでください。
- 散布薬液の飛散が可能な区域内の諸物件に十分留意してください。
- 作業後は次の項目を守ってください。
 - ・ 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
 - ・ 使用残りの薬液は、必ず安全な場所に責任者を決めて保管してください。
 - ・ 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。

水産動植物に係る注意事項

- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管に関する注意事項

- 密栓し、火気や直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な所に保管してください。